

技術情報だより21年7月号にて掲載した、自己拡散性を持つ除草剤のことです。農薬自身が田面水に浮き、少しずつ移動することで成分を広い範囲にわたって溶かし出す特徴を持ちます。そのため、圃場内に入って中心部への散布が必要なく、さらに粒径が1キロ粒剤に比べ大きい

拡散性除草剤とは

2022年10月号

JA全農福島 肥料農薬部



技術情報だより

Vol.5

水田除草作業を効率的に!? 「拡散性除草剤」の省力散布技術

ため、ドリフトの心配も減ります。

省力散布の方法

水稲除草剤の省力化技術が進み多種多様な散布方法が可能となってきました。特に拡散性除草剤では複数の散布方法が可能であり、天候・圃場条件に合わせた方法を選択で

除草効果を得る為に

水稲除草剤の効果をも十分に発揮するためには、「使用上のポイント」を守る必要があります。

きます。(登録によってはできない散布方法もありますので、登録内容をよくご確認ください)

水口施用



周縁散布



無人航空機散布



田植or播種同時散布



散布方法 (一部)

※農薬登録を良く確認して使用しましょう。

【使用上のポイント】

① 4日間 湛水維持

② 7日間 落水なし (止水)

③ やや深水 (5~6cm)

① 湛水のまま散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(3~5cm)を保つ。

② 環境への流出防止のため散布後7日間止水する。

③ (拡散性除草剤は)農薬成分を十分に拡散させるため、やや深めの湛水(5~6cm)を保った状態で散布する。

④ 自然減水により田面が露出しそうな場合は、止水のまま通常湛水になるまで静かに入水する。

除草剤散布のポイント

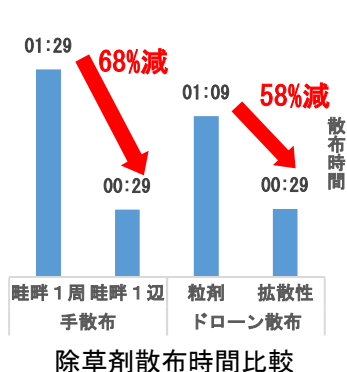
拡散性水稲除草剤の散布比較実演会

拡散性除草剤によって作業時間短縮となるか検証するため、福島県内2か所にて散布比較実演会を実施しました。

【比較した散布方法】

- ・(1キロ粒)ドローン散布
- ・(拡散性)ドローン散布
- ・(拡散性)畦畔1周散布
- ・(拡散性)畦畔1辺散布

その結果、ドローンで1キロ粒剤を散布するより拡散性除草剤を散布することで作業時間58%減、通常の畦畔を1周する手散布に比べ拡散性除草剤の1辺散布では68%減も作業時間短縮になりました。



お近くのJAまで!

JA全農 拡散性水稻除草剤の散布比較実演会

JAふくしま未来協力のもと安達郡大玉村、JA会津よつば協力のもと喜多方市塩川町の圃場にて「拡散性水稻除草剤の散布比較実演会」を実施いたしました。

<設計>

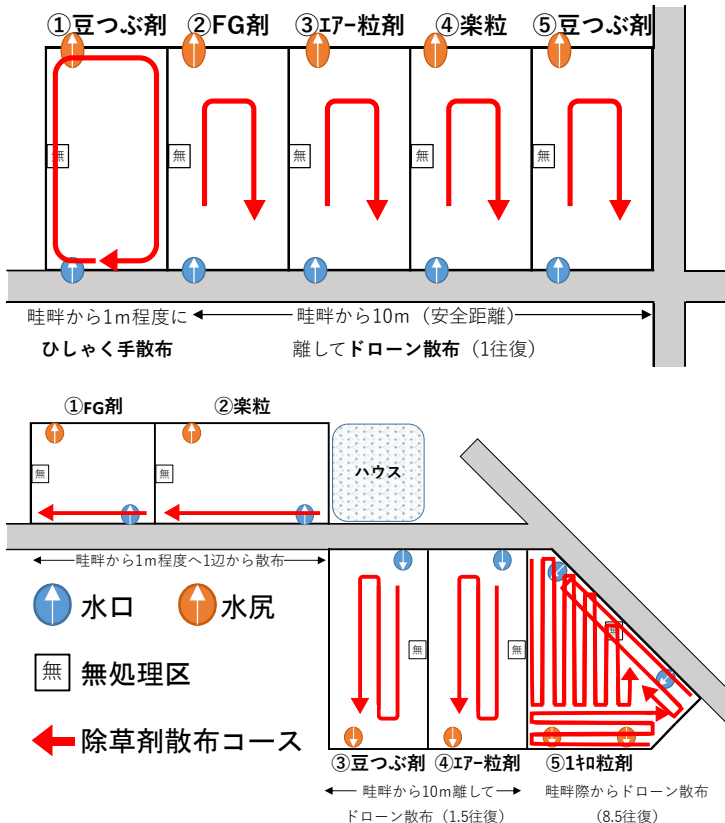
安達郡大玉村 圃場 1

番号	製品名	処理方法	圃場面積
①	豆つぶ剤	畦畔周縁散布	26.5a
②	FG剤	ドローン散布	28a
③	I7-粒剤	ドローン散布	28a
④	楽粒	ドローン散布	28a
⑤	豆つぶ剤	ドローン散布	28a

喜多方市塩川町 圃場 2

番号	製品名	処理方法	圃場面積
①	FG剤	畦畔1辺散布	22a
②	楽粒	畦畔1辺散布	32a
③	豆つぶ剤	ドローン散布	38a
④	I7-粒剤	ドローン散布	36a
⑤	1キロ粒剤	ドローン散布	46a

<圃場図・除草剤散布コース>



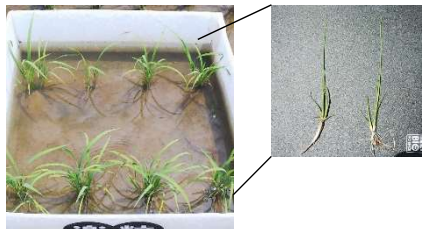
<結果>

圃場面積がそれぞれ異なるため、散布時間を10aあたりで計算したところ、**拡散性除草剤を用い、省力散布法を用いることで大幅な作業時間短縮**となりました。

散布方法	散布地点	製剤種類	対象試験区	散布時間 平均 (/10a)	時間短縮
手散布	畦畔周縁	拡散性	圃場 1-①	1分29秒	—
	畦畔1辺	拡散性	圃場 2-①、②	29秒	68%減
ドローン	全面	1キロ粒剤	圃場 2-⑤	1分9秒	—
	1~1.5往復	拡散性	圃場 1-②~⑤、圃場 2-③、④	29秒	58%減

拡散性除草剤では、1辺散布やドローンで1往復だけという**丁寧な均一散布を行わなくても十分な殺草・抑草効果**が見られました。ただし、**田面が露出していた地点については雑草が多発生**する結果となりました。

無処理区【ホタルイ発生】
(散布1月後)



処理区
(散布1月後)



処理区【田面露出部雑草多発生】
(散布14日後 ⇒ 散布1月後)



農業についてのお問い合わせは**お近くのJA**まで！